【令和4年度　授業改善推進プラン】

板橋区立北野小学校3年生

【社会】

■児童の状況	・学習の始めは興味・関心を示している児童が多い。 特に学校や家の周りのことについて興味関心を強く示す。 ・社会科の学習は、覚えることが多く、用語も難しくなってきているため、難しさを感じる児童が少なくない。 ・基本的事項（都道府県・資料の読み方など）の定着が不十分な児童がいる。 ・写真や地図、文章などの資料から読み取る力が十分でない児童が多い。また、資料から読み取ることができても、それを活用したり、それをもとに自分の考えをもったり深めたりすることのできる児童は少ない。 ・知識を問う問題では、歴史的事象と歴史上の人物、関係している建造物などとを総合的に捉え、関連付けて問題を解くことに対して苦手傾向がある。
■指導についての課題	・校外学習では、本来の目的に沿わず体験を楽しんで学習を深めるまでに至らない児童もいる。 ・難しい用語を個別に教えていくのではなく、全体を俯瞰させ、つながりに目を向けさせていくことが重要である。 ・１人１人が問題意識を持った状態で学習を進めることが難しい。 ・魅力的な導入から児童の問いを引き出し、調べるという流れが十分に作り出せていない。 ・ねらいにせまるための資料を探し出すのがむずかしい。 ・用語を正しく使ったり、グラフなどの資料を正しく読み取ったり、インターネットを活用したりする技能を身に付けられるよう、学年に応じた指導を続ける。 ・授業内で学んだ知識を活用して問題を解く時間の確保が難しい。
■授業改善に 向けての具体的な方策	・身近な学習材を活用したり、楽しみながら学習したりする経験を積み重ねる。学習を深める指導の工夫を行う。実際の生活と関連させながら学習できるよう、身近な地域教材を開発する。 ・学習課題を児童とともに作っていけるような導入と学習展開をする。 ・パワーポイントや動画を利用して資料を効果的に提示する。 ・表題を読み取りながら、文章やグラフ、写真についての読み取りを深めるよう指導する。